



全国路地サミット 2022in 長崎
立体路地のまち長崎から
路地の魅力を考える

2023. 02

全国路地のまち連絡協議会世話人会



シンポジウム後の懇親会の参加者

はじめに

全国路地サミットが令和4年11月19日～20日にかけて開催された。新型コロナウイルス感染症の拡大により、1年延期した富士市が2年目の開催延期・断念を受けて長崎市で3年ぶりに開催するに至った。再び感染者数が増加する中、開催いただいた長崎市の関係の皆様には、様々なお苦勞があったと拝察するとともに、そのご尽力に大変感謝している。

今回、山口広助氏（長崎さるくガイド・長崎游学の会代表）に「長崎の路地裏の楽しみ方」と題して基調講演をいただいた。山口氏は、2006年に開催された長崎さるく博の市民プロデューサーの一人としてコース作りに携わられた。また、2015年から開始されたNHKのブラタモリのレギュラーシリーズ第1回「長崎 ～坂の町・長崎～」の始まりとは？で、「長崎」の由来となる長い岬の痕跡や道路下に眠る江戸時代の石橋を案内している。

山口氏には、「長崎さるく」の原点やさるくガイドの考え方、景観や歴史的建造物の保全とせいかつのバランスの取り方の難しさについてお話しいただき、最後に、「街歩きの良いさは、人々の生活に少し接すること」「100年後に路地が残っているのか？路地が古い言葉ではなく、現在進行形の言葉としていかなければならない」とお話しいただいた。

パネルディスカッションでは、長崎都市・景観研究所所長の平山広孝氏をコーディネーターとして、姫野由香氏（大分大学准教授）と桐野耕一氏（NPO長崎コンプラドール理事長）をパネリストとしてディスカッションをいただいた。

姫野氏からは、街路としての路地の意味をスペースシンタックス理論により、路地のネットワークが繋がることによりまちの人流・繁華性が向上することと、路地の活用がまちの奥行きをつくることについてお話しいただいた。桐野氏からは、路地には世間・コミュニティがあり、自分たちの営みや暮らしを話しながら歩く。それによって、参加者が自分のまちに置き換え、共感することによって魅力を感じることをお話しいただいた。

平山氏からは、再建困難な斜面の路地沿道において、空き地に農園を整備することにより若者を呼び入れるとともに、地域のコミュニティの場としていることと、思案橋等の繁華街におけるスナックとスナックを利用しない若い世代のマッチングのためのイベント「アート&スナック」についてお話しいただいた。

いずれにしても、路地は魅力のあるヒューマンな空間であり、都市のエレメントとして維持・活用していくことが大切であることを再認識する議論であった。

本報告書は、全国路地のまち連絡協議会世話人を中心として参加した者が、サミットや長崎のまちを歩いて感じたことを単純にまとめたものである。

Summit / Symposium & Panel discussion

全国路地サミット2022in長崎



立体路地のまち長崎から
路地の魅力を考える

長崎
初開催

2022/11/19(Sat.)・20 (Sun.)

■1日目 11月19日(土)

(1)シンポジウム：会場 長崎県美術館2階ホール

長崎県美術館：長崎県長崎市出島町2番1号 TEL:095-833-2110

13:00～受付開始

14:00～基調講演・演題「長崎的路地裏の楽しみ方」講師 山口広助氏(長崎の歴史風俗研究家)

15:00～パネルディスカッション演題「路地空間の魅力を次世代と考える」

・パネラー1：大分大学理工学部 姫野由香先生

・パネラー2：NPO長崎コンプラドール 桐野耕一理事長

・コーディネーター：長崎都市景観研究所 平山広孝所長

(2)交流会 18:00～出島ワーフ カフェレストランattic(アティック)

(3)オプション まち歩きナイトツアー 20:00～(約1時間30分程度)

・Aコース：夜景景観路地さるく(NPO長崎コンプラドール 担当：桐野耕一理事長)

・Bコース：思案橋界限路地さるく(NPO長崎コンプラドール 担当：田中潤介事務局長)

・Cコース：アーティストと出会う銅座界限アーツ&スナック(長崎都市景観研究所)



基調講演講師
山口広助氏

■2日目 11月20日(日)

(4)エクスカーションツアー(希望者) 10:00～12:00

・Dコース：長崎立体斜面路地散策(長崎都市景観研究所 担当：平山所長)

・Eコース：長崎人に人気の丸山ぶらぶら(歴史風俗研究家山口広助氏)※市外の方優先

・Fコース：ねこさるく(NPO長崎コンプラドール 担当：川良真理副理事長)※早朝7:00～9:00

・Gコース：駅チカの聖地さるく(NPO長崎コンプラドール担当：平浩介理事、貞住史華理事)

■参加費：2日間通し 8,000円/人(交流会食事代、オプション、エクスカーション込み)

■参加お申し込み：右→のQRコードから専用フォームで申し込みください。

■主催：全国路地サミット2022in長崎実行委員会・実行委員会：長崎市(まちづくり部都市計画課、景観推進室、まちなか事業推進室、観光交流推進室)、NPO法人長崎コンプラドール、(一社)ナガサキベイデザインセンター
長崎都市・景観研究所/NULL、斜面地・空き家活用団体つくるほか

■後援：全国路地のまち連絡協議会

■お問い合わせ：実行委員会事務局 Fax/095-804-8953 MAIL/nagasaki.b.d.c.001@gmail.com

コロナ感染症対策を実施して開催いたします。マスク着用をお願いします。体調がすぐれない方はご参加をご遠慮ください。

参加申し込み
↓QRコードから



も く じ

1. 今井晴彦	1
2. 伊藤雅彦	2
3. 高尾利文	3
4. 三橋重昭	10
5. 吉野国夫	12
6. 荒木克成	13
7. 木村晃郁	18
サミット配布資料	27
NAGASAKI MAP	27
NAGASAKI MAP	33
NAGASAKI MAP	35
長崎絵図 1802	43
編集後記	45

第 17 回全国路地サミット(長崎)の感想

今井晴彦

コロナの影響で富士市の路地サミットが開催できなくなり、八戸以来3年ぶりに、長崎の方々のご尽力で開催することができ感謝、感謝である。第1回から20年ほどたったという点でも記念すべき路地サミットだったと思う。まさしく長崎の方々の大変な努力と決断のおかげであった。

あいにくコロナに関連したゴーツーキャンペーンが始まっており、観光シーズンであることもあって長崎には旅行客が殺到し、ホテルがとれない、飛行機がとれないなどの困難が発生してしまっ、参加を断念したメンバーも出てしまったことが残念だった。

シンポジウムでは、地元の方々が路地へ関心を持たれていること、またその魅力を感じておられることが分かった。ただその路地が長崎の町とはどういう関わりを持っているかについて、お話からは十分分からなかった。大分大から参加された姫野先生が路地の迷路性を3段階で分類しておられたのは面白かった。

以下長崎の町について、私見であるが、思ったことの一部を書きたい。

路地と路面電車が共存する長崎:

長崎は港湾都市の典型で、平地が少なく、すぐに斜面地が迫る地形となっており、そのため限られた平地は高度に開発され、多くの都市機能は平地に集中している。このような場合、当然交通需要は平地に集中的に発生するため、自動車に頼った交通では貴重な土地がほとんど道路と駐車場にとられてしまい、人間の居住スペース確保が困難になる。例えば米国の都市では都心部の土地利用の7割くらいは道路と駐車場となってしまう、ポツンポツンと建つビルにわずかに人がはりついている。当然ながら路地などは見られない。

ところが長崎では路面電車やバスが縦横に走って需要に対応している。見ると電車での乗車密度はかなり高いようだ。このおかげで、長崎は自動車砂漠にはならず、都市の魅力を保持しているのだろうと思う。

また公共交通と歩行との組み合わせに、路地がしっかり組み込まれているようだ。傾斜のある複雑な地形でも、大規模な土地の改変をせずすむ路地の良さが発揮され、またそのことが車利用を抑制する効果を発揮しているため、電車への需要増へつながっているであろう。

路面電車と路地の連携、或いは共存していることが、長崎の町の歴史や文化、魅力が残され、自動車砂漠を防いでいるのではないか。というのが、ちょっとだけしか滞在していないよそ者の感想です。



事務局の設営含め実に素晴らしい3年ぶりのサミットに参加できました。まずは事務局にお礼申し上げます。ありがとうございました。公私とも何度も来ている長崎ですが久しぶりではあります。最初に来たのは定住圏構想フォローアップ作業のときです。テクノポリスよりこれからは臨空型都市開発だ、と提案しても社内でも役所もあまり関心なく、重厚長大型開発の期待が基本にあったようです。高付加価値製品の IC チップや LSI 製造等は物流網構築にも、製造はロボット組立で雇用にもあまり影響しないという予測は共有されなかったのかもしれませんが。

前泊し中心市街地を歩いてみました。家族とも来ているはずですが、中心市街地＝飲み屋街を歩いた記憶は全くありません。旅行者には起伏に富み街の構造が複雑と思い込んだのか、銅座町の繁華街は短時間で把握しにくいことが遠因かもしれません。短時間で移動する家族旅行者には充実したホテル設備が最重要でした。

路面電車（長崎電気軌道）は駅間が 100~400m 程度と短いが一杯に乗客を乗せ観光だけでなく生活に溶け込んだ存在とわかりました。駅前跨線橋からの眺望はまるでジブリ映画の既視感ただようジオラマでいつまでも見ていられます。寺町に向かって傾斜する立体的なまちに非常に貴重な観光資源であり、だからこそ現状を維持しているのだなと思いました。扇状地にある市街地は水系路も多く、従って生み出される歩行者空間、路地も実に複雑でした。



まちぶらプロジェクトでは長崎新幹線開業に併せ多数の整備事業が始まるようです。銅座町の水路沿い再整備がすすみ新たなサーキュレーションができていくようですが、枝葉のように伸びる路地空間が活性化し人間的な歩行者空間の創出が期待され、古くからある文化財と新しい魅力が更に長崎の魅力を拡大していくように思いました。

全国路地サミット 2022in 長崎 レポート

高尾利文

木曜早朝に福岡に入り、木曜・金曜日は長兄宅の春日市を中心に活動。筑前、太宰府、朝倉、糸島、福岡を見学



筑前町の巨大わらかがし
(2022年はティラノサウルス)



糸島市のシェア型超小型電気自動車
(よかまちみらいプロジェクト)



ふたつ星 4047
(西九州の海めぐり列車)

土曜は、実家近くの江北駅(旧肥前山口駅)から武雄温泉駅、そして西九州新幹線経由で長崎駅、なぜか駅に乗り入れていない路面電車で出島まで、そこから歩いて会場へ



武雄温泉から嬉野温泉、新大村、諫早、長崎の順(30分)



路面電車。出島で降車
(軌間は1,435mm)



出島

「立体路地のまち長崎から路地の魅力を考える」で始まったシンポジウムは、その後の夜と翌日曜日のまち歩きをして初めて、なんとか理解することができた。よってシンポジウムでは、長崎の路地の魅力をどう考えるかのイメージが掴みにくかった。こういう時はやはり写真や地図で共有すると効果があると思う。その意味では、姫野先生の別府と大分の比較地図はわかりやすかった。



開会の挨拶



変装の名人・山口広助さんの基調講演
(長崎的路地裏の楽しみ方)



会場の様子

○路地の先
○スペースシンタックス理論
姫野由香さん
(大分大学准教授)

○路地には世間がある
○世間と世論の違い
桐野耕一さん
(長崎コンプラドル)

○景観はまちの価値を映す鏡
○斜面地空き地での露地栽培
平山広孝さん
(長崎市職員、景観の所長)

交流会会場は、出島ワーフ内のカフェレストラン。私は寒くてもっぱらホットワイン



長崎出島ワーフ
(平成12年4月開業)



港らしい雰囲気をもった賑わい空間



出島ワーフから稲佐山をのぞむ



交流会の様子



交流会の様子



梅元建治さん

オプションまち歩きナイトツアーは、Bコースの「思案橋界限さるく」に参加。飲み会の後にどうしてまち歩きと思っていたが、長崎の夜のまちは素敵だった。夜間景観に相当力を入れているようで、埋め立ての歴史を踏まえ海と川を上手に取り込んでいる。



出島表門橋のライトアップ
(出島地区は国の都市景観大賞)

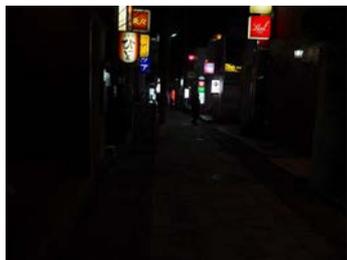


中島川に映える十八親和銀行本店
手前の橋は、鉄骨の橋・出嶋橋



長崎カステラの元祖・福砂屋

それから思案橋界限。夜のまち歩きで、どこを歩いているのか良く分からなかったが、あとで調べてみるとかなり狭いエリアを徘徊していた。丸山町交番の前の通りが幅広で、ここを起点とすると、まちの構造がわかりやすい。思案橋～見返り柳～丸山町交番に一つの軸がある。



柳小路通り



思案橋通り



ハモニカ横丁(銅座川の上)
(思案橋横丁と春雨通りの間)

都市計画道路が整備中とのことで、路地(柳小路通り)の一部がなくなりつつあった。当夜は整備中の空きを活かした広場に、アーツ&スナックながさきフェスの事務局があった。

思案橋横丁とハモニカ横丁は、銅座川の上にある。戦後、春雨通りに闇市ができて、露店を一掃するために銅座川を埋めて移したとのことであった。



整備中の都市計画道路
(右手が柳小路通り)



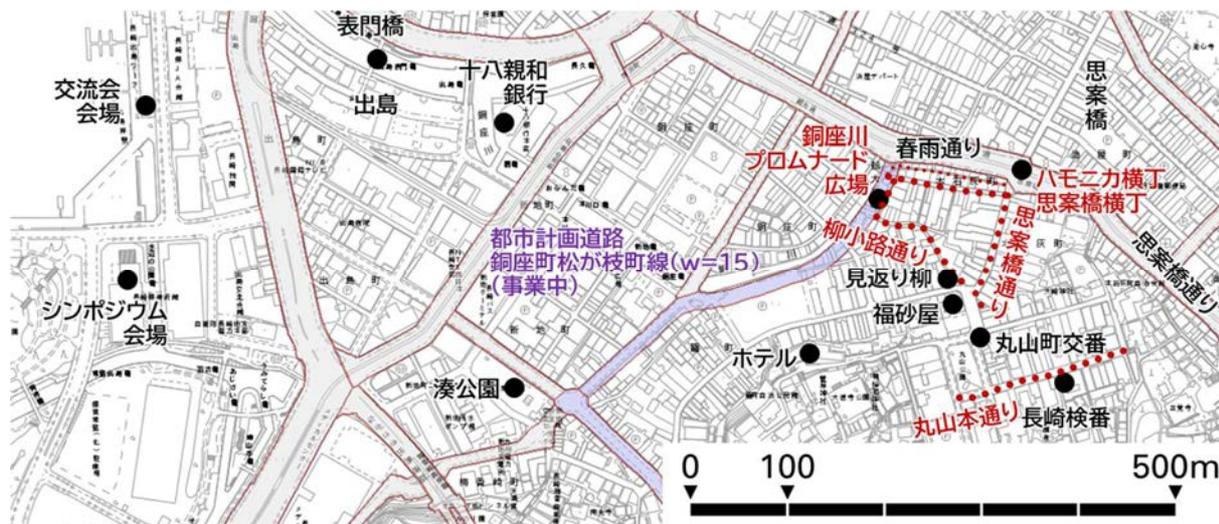
アーツ&スナックながさきフェス
(銅座川プロムナード広場)



思案橋通り



ハモニカ横丁(幅 2m 満たない)
(思案橋横丁と春雨通りの間)



日曜日の早朝は朝食前に、丸山の探検



長崎検番



丸山本通り
(左手奥に検番)



高島秋帆旧宅を囲む路地

長崎市丸山町と寄合町が花街。ここから出島や唐人屋敷まで出向っていたとのこと



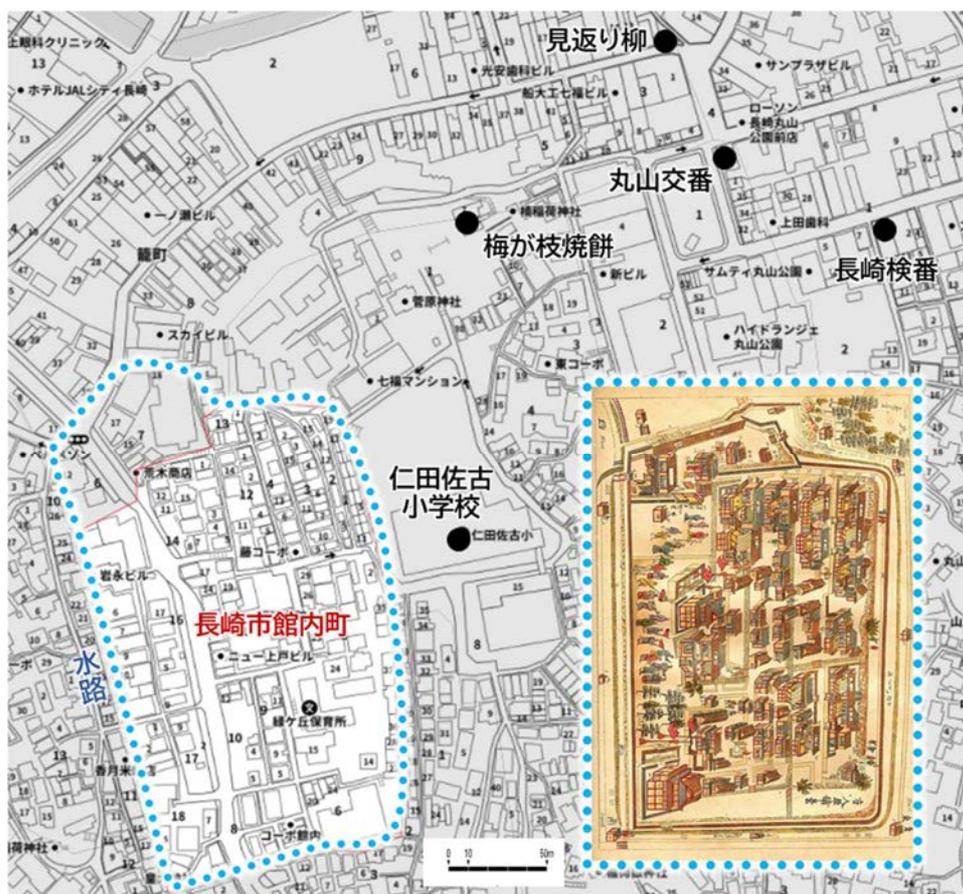
夜の丸山町交番



早朝の丸山町交番



朝食後、今度は唐人屋敷の探検。現在の長崎市館内町。周囲は堀の跡





唐人屋敷跡象徴門(大門)
(都市計画道路)



館内町の中心となる路地



堀の跡

「市営十善寺地区コミュニティ住宅のエレベーターは、一般利用ができ、上の階の横道に出られる」と記載されていたので探検

調べたら、斜面市街地再生事業によるものとわかった。そのなかに若年世帯向け住宅の供給と生活道路網の形成がある。



コミュニティ住宅の1階レベル
(エレベーターは一般利用可)



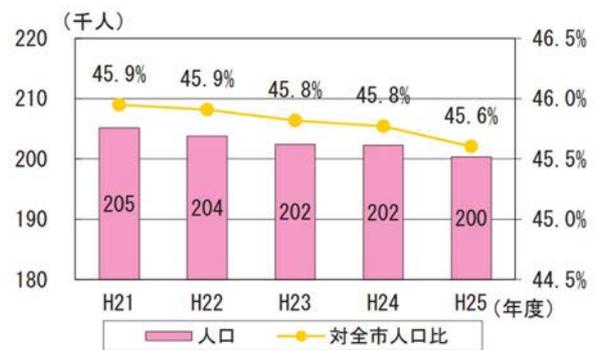
コミュニティ住宅の3階レベル
(3階から橋で道路へ)

湊公園に10時集合。Dコースの長崎立体斜面路地散策に参加。

ここで斜面地について長崎市都市計画マスタープランで調べると、

- ・現状:斜面地の面積は既成市街地の7割を占め、人口は5割弱を占める。人口減少・高齢化が進んでいる。
- ・課題:土砂災害や火災の延焼の危険性、住宅の更新が進まない
- ・方針:防災、一定の利便性が確保できる住宅地
- ・施策:車みち整備事業、木造老朽建築物の建て替え事業、老朽危険空き家対策事業

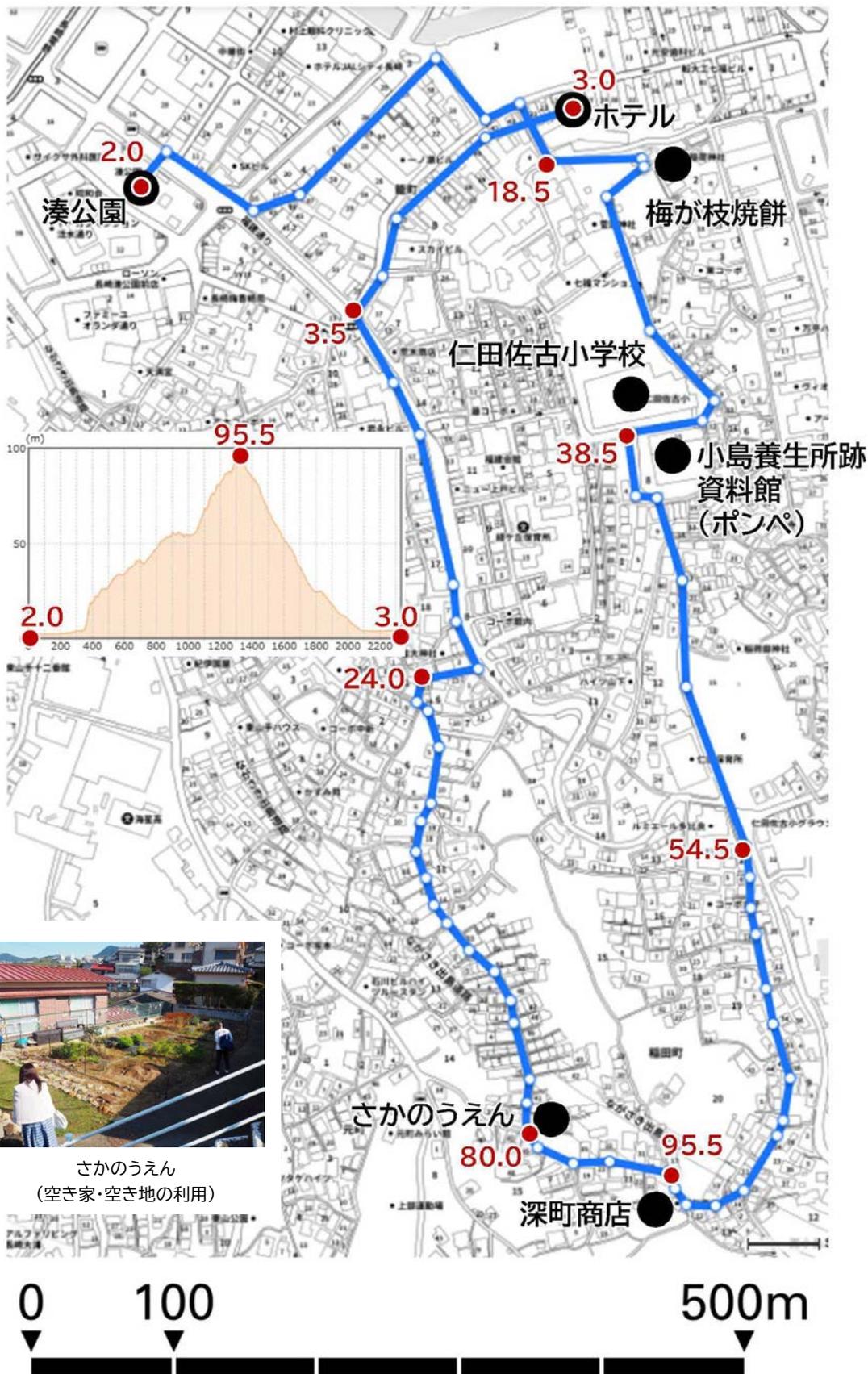
◎斜面市街地と対全市人口比の推移



車みち整備事業の要件

- ・既成市街地内の斜面地にある市道(里道で道路幅員 2.5m 以上(一部 2.0m まで)確保され、市道として認定することができるものを含む)であること。
- ・整備後の道路を利用する家屋(生活実態のある家屋)が5戸以上あること。
- ・整備後の縦断勾配が25%以下であること。ただし、平均縦断勾配としては20パーセント以下であることが望ましい。
- ・用地提供等を含めた事業協力について、地元自治会や地権者の同意が得られること。

10時10分に湊公園を出発し、12時10分にホテル着。2時間で2.3km。高低差は90m以上で、勾配はおおよそ9%。ピークに小さい小売店(深町商店)があり、この辺りの徒歩圏では唯一のお店





自販機のある路地



階段上の路地
(白線付き)



行き止まりの長屋
(枝路地)



空き地



ゴミステーション
(キャスター付き)



平地の市街地と稲佐山をのぞむ

斜面地の交通手段はバイクが中心。よって自転車の保有率が低いとのこと

自転車の保有率は引越し待荷物量ランキングによると、最も低いのは沖縄県 13.7%、次いで長崎県 15.2%であった。参考まで来年のサミット開催都市を擁する京都府は最も高く 44.5%

自転車の保有率ランキング 下位10		
	都道府県	保有率
1	沖縄県	13.7%
2	長崎県	15.2%
3	秋田県	23.7%
4	山梨県	26.5%
5	石川県	26.8%
6	福井県	27.3%
7	鹿児島県	27.5%
8	大分県	27.6%
9	山口県	28.0%
10	岐阜県	28.6%

2019年1月集計 (住)引越し待調べ

自転車の保有率 ランキングTOP10		
	都道府県	保有率
1	京都府	44.5%
2	大阪府	43.6%
3	埼玉県	43.5%
4	香川県	42.9%
5	高知県	40.9%
6	愛媛県	39.6%
7	徳島県	39.5%
8	東京都	39.4%
9	千葉県	38.9%
10	岡山県	38.7%

2019年1月集計 (住)引越し待調べ

長崎からの帰路はレンタカーで、途中、佐賀県鹿島市の肥前浜宿(重要伝統的建造物群保存地区)と、同じく嬉野町の塩田津(重要伝統的建造物群保存地区)に寄り、長兄宅に泊まり、翌月曜日の午後にアルメックへ

全国路地サミット 2022in 長崎 レポート

三橋重昭

第17回全国路地サミット、前回の八戸サミット(2019年10月)以来3年ぶりの開催。

コロナ禍は続いているが、ウズコロナ時代の幕開けのサミットとなった。

実行委員会の梅元健治さんが現地長崎で企画や諸準備を行っていただき素晴らしいプログラムとなった。

長崎は『長崎さるく博'06』で有名。これは2006年4月から10月までの約半年間行われた長崎まち歩き博覧会。「さるくコース」は全部で73コース、期間中の延べ参加者数は推計で1,023万3千人と発表された。

翌年以降は「長崎さるく」として今日まで行われている。

今回のサミットの基調講演者山口広助さんやNPO長崎コンプラドール桐野理事長、川良副理事長、田中事務局長他は「長崎さるく博'06」の中心メンバーという。

皆さんの話では、まち歩きイベントは、2000年スタートの山鹿市の『米米総門ツアー』、2001スタートの別府市の『ハットウ・オンパク』(別府八湯温泉泊覧会)が土台になったという。そのころ国交省等でも“街なか観光”や“着地型観光”“インバウンド観光”等の言葉が使われ始めたと思う。



基調講演は「長崎的路地歩きの楽しみ方」、楽しい意義ある話をお聞きした。

パネルディスカッションも面白かった。パネラーの姫野先生とは第6回路地サミット以来(この時に「長崎さるく博'06」プロデューサーの茶谷幸治さんの話も聞いた)スペース・シンタクス理論を用いた大分及び別府の路地、街路分析結果が興味を引いた。

長崎ワープでの交流会後の「まち歩きナイトツアー」は、桐野理事長のご案内でまずタクシーで鍋冠山展望台に行き夜景を眺め、崖道のような路地を100m以上降り、そこに立つ国宝大浦天主堂の美しさに息を飲んだ。





桐野さんの大浦天主堂建築棟梁の悲話や明治初年の2世紀半ぶりの“信徒発見”の話は感動的だった。

またツアー終了後ホテルで特注のカクテルでのおもてなしも一同大変感激した。

翌日のエクスカージョンツアーは、山口広助（ヒロスケ）さんのガイドで、「長崎人に人気の丸山ぶらぶら」。

中華街の歴史、河川の暗渠上の飲食街、中心街浜町商店街の成り立ち、花街丸山の歴史、思案橋の地名由来等、この分野で著書も多数あるヒロスケさんの話は奥が深く貴重な経験をさせていただいた。



路地協は、路地の効用を積極的に理解し啓蒙活動も行っている。路地の良さを見直す。そのためには路地を歩くことも必須、そしてまち歩きを楽しむ。歩くことによってその土地の地理、歴史、伝統、文化、生活そこに生きた人を知る。さらに健康増進にも役に立つ。



（長崎 浜町商店街）



（長崎 築町商店街）

私は中小企業診断士として商店街活性化のお手伝いもしてきた。

路地と商店街は共通項が多い。

- ① 徒歩が中心
- ② 歴史、伝統、文化の集積と繋がりがある、
- ③ 人と人との交流が大切
- ④ 高齢化社会にやさしい
- ⑤ 低炭素社会に適合した場所（二酸化炭素を出させない施設）
- ⑥ 都市開発や巨大資本によってその存在が危うくなっている。

長崎の中心商店街も大分歩いた。比較的元気だったことも嬉しかった。

タイトル：思案橋横丁の生活感漂う路地

吉野国夫（ダン計画研究所研究所）

長年の路地仲間、木村晃郁さんの準備原稿をみると・・・「思案橋横丁」の両側の店舗からが所狭しと袖看板がせり出している。路地好きとしては、わくわくしてくる・・・

同じ感覚の人だなーと思った次第であるが、僕は生活感に圧倒された。洗濯場が在ったり、共同トイレがあったりする中で、それを楽しむかのような矚り口的な扉が若い女子をもてなしている。大阪でもここほどひどい（尊敬語）風景は失われてしまった。長崎の路地に脱帽である。



立体路地のまち長崎から「路地の魅力」を考える？！

荒木 克成

長崎港や水辺の森公園のある美しい場所に位置し、隈研吾がデザインしたモダンな長崎県美術館2階ホールを会場にして、長崎の歴史風俗研究家であり、まち歩き達人、山口広助氏により、基調講演「長崎的路地裏の楽しみ方」の伝授から、全国路地サミット2022長崎は始まった。



出島ワーフカフェレストランでの交流会後に予定されているオプションまち歩きナイトツアーや2日目のエクスカッションツアーへの導火線的な意味合いも含め、本路地サミットへの興味、関心は否が応でも高まるよう仕組んだのは、司会の梅元建治氏が前回の路地サミットの地八戸のスナックプリンスを引き合いに出す発言に見られたように、八戸に負けず劣らず長崎の夜を参加者に提供したいとの強い想いではなかったのかと、その後のおもてなしから勝手に邪推した次第だ。

パネルディスカッションでは「路地空間の魅力を次世代と考える」と題し、大分大学の姫野由香助教より、大分市？の商店街の活性化を目指した路地活用のプロジェクト「路地の先」を学生と一緒に手掛けられた紹介に加え、韓国釜山港でのウォータフロント開発の一環として、住民あげて斜面地の再生に取り組んでいる事例も発表され、立体路地のまち長崎の未来展望が、国際色豊かに解き明かされる。



更に、長崎都市・景観研究所所長、平山広孝氏は斜面地市街地の空き家を市民農園として再生する「さかのうえん」の取り組みを熱く語られ、長崎さるく博06のスタート時の立上げメンバーであり、NPO法人長崎コンプラドール理事長桐野耕一氏は、長崎市における市民活動家の第一人者らしく、国際港のある坂道のまち長崎として、大いに社会実験をやるべきだと饗応されるのだった。此のエクサイティングなパネラーののめり込みは、私のような路地浪漫に浸るだけの者の想いを超え、まちづくりと路地の楽しみを直結させる社会実験への志であり、最近学んだヨゼフ・ボイスの「社会彫刻」理論を彷彿させた。

全国路地サミット2023京都は、西陣の路地を焦点とする案が浮上した。これまた楽しみだ。

出島ワーフの交流会では、ビア、ワイン、地酒、焼酎と多様な酒を飲みすぎたこともあってか、やや千鳥足でのCコース銅座界限巡りとなった感は否めず、まち歩きナイトツアーのCコースは、長崎市の中心部、「浜町・銅座エリアを文化芸術歓楽街へ」を合言葉に、まちなかのスナックやバー、広場など10会場を舞台とするアーツ&スナック長崎フェス2022と被るコースとなって、地元の次世代人との交流も私的に活発に行った。



宿泊先が、長崎駅から1時間を要する大村だったため、早々にお暇せざるをえず残念至極、悔い多しであった。

2日目のエクスカーションツアーは、Eコースの「丸山ぐらぐら」を基調講演された山口広助氏の案内によって、湊公園から、配布された古地図「享和2年肥州長崎図」を携えて、まずは新地中華街を巡り、新地蔵跡、埋立地境、R線、直線を形どる道路等を確認しながらの路地さんぽであった。丸山遊郭跡辺りは何処かと思案していると、いつしか銅座界限の路地を伝い歩き、昨晚立寄ったスナック前を通過し、思案橋横丁へと紛れ込んでいたのだった。

柳小路を通りを抜けると福砂屋本店の前に出る。ここ辺りで、丸山遊郭に足を踏み入れるか躊躇するため、思案橋の名が付されたとの蘊蓄を聞いてほんまいかなと疑ってみるも、遊郭とは、人生の機微を垂らす男のワンダーランドに他ならなかったのだろうと自己納得してみた。

丸山公園（坂本龍馬像も観る）、大徳寺公園（梅ヶ枝焼餅を食う）、花月史跡、梅園身代わり天満宮辺りを過ぎ、急な階段を登りきると料亭青柳（案内人の実家）がある。因みに、案内人は丸山町の町会長でもある。丸山ぶらぶらはここまでとするが、オランダ坂がこの地域にもあることを知った。



思えば、開催詳細のメールを受信してから、宿手配がネットでは進展せず、旅行会社へアプローチしても、予約が必要で三日後とのつれない回答。

直接、横浜駅のHISへ飛び込み、JALのチケットと19日、20日の連泊で、長崎駅から1時間弱のチサンイン大村長崎空港を抑えることができた。

波乱はここで終わらなかった。当日は余裕をもって羽田空港へ出向いたにもかかわらず、また、QRコードを翳すだけで搭乗できるとの旅行会社の説明とは違い、長蛇の列が続き、ボディチェックも手間取り、辛うじて搭乗できる塩梅であった。その上、雨天が影響したのか、到着時間が30分以上遅れ、リムジンバスの出発時刻も過ぎてしまっており、焦燥感はピークに達した。

バスは、定刻をはるか過ぎていたが出発せずに待機していたこともあり、同じ飛行機便に搭乗していた隣席のご婦人とも会話が弾み、居留地学会に出席するために長崎大へ向かうことを知らされた。

新地中華街で下車して、出島の景観に触れた時、モダンな長崎県美術館を目にしたときははるばる来たことに喜びを実感している自分を発見し、松崎、八戸に続いて3回目になる全国路地サミットへの期待が膨らんでいった。

「丸山ぶらぶら」を解散した後は、梅元建治長崎市会議員の案内で思案橋横丁の天天有にて、ぶらぶら参加者数名とちゃんぽんを戴くことになった。昨晚スナックで同席した女性がちゃんぽんなら康楽（かんろ）が一番との声が頭に残っていたので皿うどんを注文し、瓶ビールでひとり乾杯した。

皆さんとお別れした後は、浜屋百貨店が気になり入店した。北海道物産展が賑わっていたのと、食堂のちゃんぽんが先程食べた価格より安いのに戸惑ってしまった。

観光通りアーケードに構えていたSTROCALに加入して、電車1日乗車券を電子購入。次にJR長崎駅の観光案内所にて、ロープウェイ前売り券を購入してから、長崎大学、原爆資料館、平和公園、浦上天主堂を巡り、定番の大浦天主堂、グラバー園周辺を散策し、康楽を目指した。康楽は、昼に寄った天天有の数軒先であったのだが、残念ながら休業のため、少し前に偶然再開した伊藤雅彦さんがお目当てにした福山雅治が鼻屑にしていたという思案橋ラーメンを探し当て、先に入店していた伊藤さんお薦めの爆弾ちゃんぽんに満足し、その後は稲佐山の夜景をひとり堪能した。



長崎旅3日目、長崎サミット前に、日本橋長崎館観光案内所にて島原雲仙観光を勧められていた私は、知らされていた時刻に大村駅に着いたのだが、諫早を經由して、海岸線を走破する島原鉄道の島原行の電車がなく、佐世保へ出るか、はたまた長崎市内を巡るか煩悶していると、大村駅の女性駅員はタブレットを駆使して、諫早から雲仙行55駅を停車する路線バスを提示。雲の上の避暑地、雲仙行が実現した。



雲仙地獄を巡り、露天風呂にありつけた時は、五島うどんナポリタンと地酒はねき搾りのご相伴にあずかったことも含め、至福を覚えた。更に長崎空港最終便に搭乗する前に戴いたぶりの漬け丼の美味しさと長崎焼酎の舌触りが忘れられないな等、長崎旅の感動を上塗りしたのだった。終わりよければ全てよし、なのだ。

坂と路地のまち長崎

木村 晃郁

長崎の街を訪れるのは3回目であるが、しかし、実質は初めてと言ってよいと思う。

最初に訪れたのは、再開発地区の参考としてハウステンボスの視察であった、その際に福岡行く途中に寄っているはずであるが全く記憶が残っていない。2回目は、家族旅行で訪れたが当時2歳くらいの息子が熱を出しほとんどホテルにとどまるという、こちらも長崎の街を全く見ていないと言っていいものであった。そのため、今回の全国路地サミット2022in長崎で長崎を訪れることは非常に楽しみにしていたのである。

今回、出発前にさるくマップを印刷し準備万端長崎の地に降り立った。しかし、最近年をとったせいか、そういったもの事前に読み込むこともできなくなり、あげく現地に持って行くことも忘れる。まずはホテルに荷物を預け、フロントに置いてあった長崎の観光マップを携えて、新地中華街（空港リムジンで最初にしないに降り立ったバス停）に向かった。

■ 新地中華街

新地中華街は、横浜や神戸の中華街を知っている者にとっては若干物足りなさを感じる規模であるが、日常にない空間が形成されており、11時～21時まで歩行者専用道になって、ほぼすべての道路が石畳となっており観光客や飲食店を訪れる人々にとっては、楽しく歩ける街である。朝7時の飛行機で来たので少々小腹が空いていたので、何か買い食いできないかと辺りを見回したが、あまりそうした店がなかったように思うのは、短期になってきちんと探さない年のせいか、それとも11時頃という時間のせいか。



北門



北門と新地橋(橋の北西側は広場になっている)

■ 思案橋・銅座

「思案橋」というアーチのかかったメインの思案橋通りは幅員6m程度であろうか、その両側に小規模な飲食店ビルが軒を連ね、飲食店の袖看板が道路の上空にせり出している。飲み屋街として風情はたっぷりであるが、車が通行できるので、歩行者にとってはちょっとうっとうしさを感じる。

観光通り（春雨通り）の思案橋交差点から思案橋通りに入るとすぐに右に折れる路地「思案橋横丁」に入る。幅員一間半程度の路地に上空には思案橋横丁と書かれたアーチが10mおきにかかり、こちらも両側の店舗からが所狭しと袖看板がせり出している。路地好きとしては、わくわくしてくる。この横丁と



思案橋横丁

春雨通りの間にもう一本背割り路地が通っており、さらにディープな雰囲気醸している。

思案橋横丁をさらに奥に行くと突き当たり、左に折れると「柳小路通り」と名を変える。道はさらに左に折れ、二股に分かれ、カーブを描いていく。路地歩きとしては、この先どうなっていくのかと期待が高まっていくのである。残念ながら両側の店舗には若干空き店舗が見られ、廃墟となった鉄骨ビル、駐車場など全国でおなじみの光景も見られ、なんとかならないものかと思う。思案橋横丁と柳小路は幅員も狭いこともあって、車は入れず安心して千鳥足ができる空間である。思案橋横丁は石田畳舗装がしっかり残されているが、柳小路は過去の石の舗装が所々に残され、つぎはぎ舗装となっている。

思案橋の西側に連なっているのが銅座の飲み屋街で有り、ほぼ思案橋と一連なりの飲み屋街である。幅員 4m 以上の道路はアスファルト舗装であるが、そこから分かれる一間半程度の路地には石の舗装がされ、飲み屋街としての風情がたっぷりである。

今回、東京者のみで訪れたが、どの店に入っていいものか悩んだあげく、路地サミットで渡されたイベント「アーツ&スナック」のマップにある「おしゃべりタイム」というスナックを訪れた。気さくなママさんと、トークも素晴らしく、歌もうまい。常連とみられる男性客が3人、こちらも気さくに私たちと話してくれ、素敵な時間を過ごすことができた。

長崎のあるあるで、「ちゃんぽんのおいしい店は」と聞くと「リンガーハット」と回答が帰ってくるというのがあるが、まさにその回答が帰ってきた。本当にそう思っているのか？それともジョークなのか？真偽は確かめずに店を後にした。

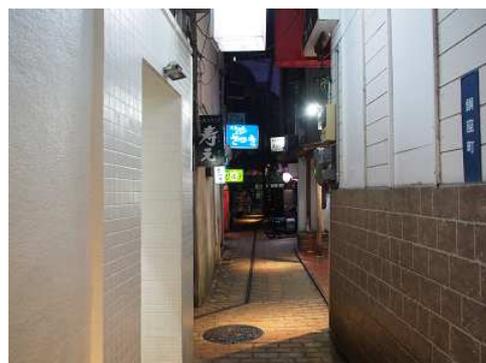
翌日路地サミット関係者に、昨晚はどこに行ったかと聞かれ、「おしゃべりタイム」と答えたところ、「いい店に行きましたね」と皆さんに言われた。何でもママさんは有名人で、結婚式の司会を百回単位でやっている人らしい。よそ者にとって、こうした店に遭遇するというのは、とてもうれしくその町の印象を良くしてくれるものである。



思案橋横丁の裏路地



柳小路の裏二股路



銅座の路地



おしゃべりタイム(長崎新聞HPより)





■ 唐人屋敷跡と中新町の斜面地

新地中華街の南側の斜面地に唐人屋敷跡と言う住宅地がある。江戸時代に中国人を集めて住ませた居留地の一つで、今は入り口に瓦屋根を乗せた大門が道路上に立ち、福建会館や土神堂、天后堂、観音堂など、赤煉瓦や木造のお堂が残っている。新地中華街を歩いて中華街としての物足りなさを感じたが、実は唐人屋敷跡や居留地の孔子廟を含めた地域全体で中華街であったんだと再認識した。



このまちは、メインストリートの唐人屋敷通りが谷筋を上っていき、その両側の急斜面に住宅街が形成されている。そのほとんどが幅員 4m 未満の路地であり、その路地はスロープになり、階段になり、右に左に折れ曲がって地形に沿って様々な表情を見せてくれ、訪問者である私には魅力的な景観を形成している。

しかし、車も入りづらいこのまちは、生活している人にとっては厳しい環境なのだろう。私の前を歩く高齢の女性は買い物の袋を持って、休み休みしながら坂道を上っている。写真を撮りながら追い越していく私のじっと見つめていた。

所々に空き地が見られる。重機はおろか小型トラックすら入れないこのまちでは、建築工事費も高く新しい家を建てて住もうという人も少なくなっているのではないかと感じた。数年前に神戸の元町の斜面地で、路地の坂の奥にうち捨てられた廃屋を見たときに、神戸の元町でもこうしたことが起きているのだと驚いたが、長崎でもやはり起きていた。



今回のサミットで報告があったが、唐人屋敷跡をさらに上った中新町では、そうした空き地を広場や農園にして、地域の人とのコミュニケーションの場として活用するとともに、若者がその地域とふれあえるきっかけにしている。この活動を活かして、若者たちがこの魅力的な傾斜地に新たな生活空間を生み出してほしいものである。



空き地を地域の広場に



自治会長の畑



農作業手を休めて説明していただく



唐人屋敷跡は、さるくマップや観光ガイドにも載っているの
で、観光客が訪れる地域であると思うが、私が歩いている間に
観光客とはすれ違った記憶がない。前述したとおり、坂や階段
の中に寺院等があり、景観的には十分魅力的である。歩いてて
思ったのは、飲食できるスポットが少ないことであった。歩く
と坂の町であり当然疲れるし喉も渇く。地域の人も利用する飲
食できるスポットがあるとよいと思った。

中新町の尾根筋には、看板が出ていない地元の人しか知らない
食堂があった。菅原神社には、注文されてからおばあさんが
こねて作る梅ヶ枝餅があった。こうした地元ならではの店やグ
ルメは、坂・階段のタフな路地の街のまち歩きを楽しくさせて
くれる存在である。



上: 中新町の食堂、下: 菅原神社梅ヶ枝餅

■丸山町

思案橋通りを南に下ると、カステラで有名な福砂屋本店の古色蒼然とした町家がで〜んと構えを見せ
ており、こんな飲み屋街の中にと思われる。観光客や修学旅行生がお土産に黄色い紙袋下げて歩いて
行く。そのさらに1ブロック南に、こちらも古色蒼然とした大正ロマンの喫茶店かと見まごう丸山町交
番がある。その先が、長崎の花街「丸山町」である。丸山町は南に向かって緩やかに登る斜面に広がっ
ている。



上段: 福砂屋本店
中段: 丸山町交番
下段: 料亭 花月



一番低い部分に石畳の丸山本通りが通り、見番と花月や青柳などが立地している。丸山本通りから路地が2本南に登っていく。そのうちの1本が梅園天満宮に向かう梅園通りで、料亭花月の築地塀・板塀により花街としての景観をよく残している。

一方、青柳は丸山本通りの突き当たりの高台に立地し、青柳へ登る石段がアイストップとなっているとともに、擁壁の植栽と青柳の黒壁とともに、印象的な景観をつくっている。青柳は、路地サミットで基調講演をしていただいた長崎のまち歩きのカリスマ山口広助氏のご自宅である。



丸山本通り



梅園通り（左が花月）



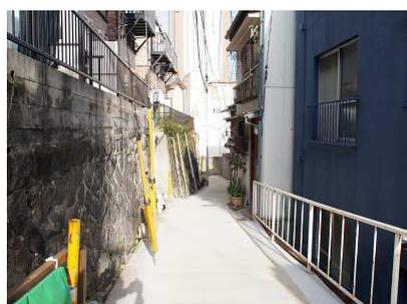
丸山本通り(右は見番)



梅園通り



梅園通り(右が花月)



丸山オランダ坂に向かう路地



正面が青柳の門



青柳と階段
蕨の這う緑の擁壁が印象的である



折れ曲がって上る階段路地
祠がアイストップに

青柳の脇を東進して春雨通り（観光通り？）に降りるところに丸山オランダ坂がある。長崎のオランダ坂といえば、オランダ通りの長崎聖三一教会から活水女子大学や海星高等学校に向かう坂をイメージするが、最初に『オランダ坂』と名付けられたのがこの丸山町のオランダ坂とのである。丸山町の芸子がオランダ商館に向かう際にこの坂を降りて水路（今の春雨通り）から船に乗ったことによるらしい。



丸山オランダ坂



有名なオランダ坂



大浦のオランダ坂

本当のオランダ坂と言われたり、3つのオランダ坂があると言われている。（もう一つはいわゆるオランダ坂を大浦方面に降りる坂）

丸山オランダ坂は幅一間ない階段で、春雨通りから見た光景は、東京神楽坂の袖摺り坂がオーバーラップして見えた。また、丸山町の南、正覚寺の周りの路地は、地形が急傾斜で地形に沿って屈曲しており、迷宮に入り込んだようであり、地図を持っていても一体どこに出るのか、期待と不安とが交錯するスリリングな路地であった。

丸山町の南側の高台は傾斜がきつく、正覚寺を取り巻くように坂や階段の路地が、地形に沿って曲がり、突き当たり、クランクして巡っている。なかなか醍醐味のある路地歩きが楽しめる。



■南山手の記念坂

路地サミットが終わり出島ワープでの懇親会の終了後に、路地のナイトツアーが組まれていた。思案橋コースも魅力的であったが、前日に歩いたこともあり、鍋冠山夜景ツアーに参加した。鍋冠山展望台からの夜景は素晴らしいものであった。一般的には長崎港の反対側の稲佐山展望台からの景色が有名であるが、鍋冠山からは長崎港越しに稲佐山も見えて、った。ひと味違ったものであった。



しかし、ツアーの本体はこの後である。鍋冠山展望台を出て茂みの中に入っていく。一体どこに行くのか不安に駆られる。しばらくゆくと前方に茂み越しに長崎港の夜景が見えてきた。先ほどより夜景が近くなっているので、着実に市街に向かって降りていることが解る。

さらにゆくと、民家が現れ、路地の坂と両側の石塀・擁壁がまばらな街灯に浮き上がりなんとも良い型風情を醸している。少しゆくと広いリンガー通りに出て、ここ渡ってグラバースカイロード垂直エレベーターへと向かう。またしばらくゆくと、大浦展望公園に至り、ガイド役の桐野耕一氏（NPO 長崎コンプラドール理事長）の解説がちょっと長めにされる。団体がひとかたまりになれる広さがあって、話をできる空間がここと言うことだろう。

ここからが、このルートメインイベントである。石畳の階段路地に煉瓦塀、手すりには照明が埋め込まれ、石畳と煉瓦塀が暗闇に浮かび上がっている。路地の先には長崎の夜景がちらついている。祈念坂である。シーンとした夜の坂を下りていくと、気持ちが無になって行くのを感じた。階段を降りたところには大浦天主堂の尖塔がライトアップで浮かび上がっており、あまりにも鮮烈ではとす瞬間である。そのあたりが三叉路になっており、大浦諏訪神社と妙行寺があり大浦天主堂と併せて「祈りの三角ゾーン」と呼ばれているらしい。

なんとも、深閑かつ鮮烈な景観を楽しめたツアーであった。ツアーの最後に「セトレグラバーズハウス」のラウンジで、スパークリングカクテルをいただきツアーを締めくくった。



■長崎の路地とまち

長崎の路地を歩いて、まさに長崎は「海と山と歴史に彩られたまち」であると感じた。歴史的な建造物や景観がそここにあり、路地もあって、歩いていて飽きないまちである。歩車道を含め多くの道路は石畳舗装され、ライトアップされている。さすが長崎である。これに加えて、2006年に開催された「長崎さるく博」を契機に整備されたまち歩き観光「長崎さるく」とさるくガイドが、観光客を誘ってくれる。思案橋・銅座の飲み屋街とともにまた訪れたいまちである。

ただ、これからも長崎が魅力あるまちとして行くためには、いくつかの課題も感じられた。一つは今後の超高齢化社会への対応である。観光客は高齢者の占める割合が必然的増えてくる。足腰が弱くなっている方、車椅子の方など、まちのバリアをどのように軽減していけるかが課題となると考える。石畳は歴史的なものでもあり、景観の重要なエレメントでもあるが、車椅子やシルバーカーなどは石畳はかなり厳しいものがある。高齢者でも簡単に利用できるセグウェイ的なものも用意する必要があるかもしれない。ただ、これも階段は登ることはできない。

これは、観光の視点だけでなく生活都市としても、重要な課題である。現に階段路地の住宅地では空き地が目立って増えてきている。斜面地における市街地の機能更新について、基準法の問題だけではなく、物理的な住みやすさや魅力づくりが必要と考える。現在、若者である長崎都市・景観研究所所長の平山広孝氏らが展開している空き地の広場化や農園化は一つの解ではあるが、それですべてが満たされるものではない。大分大学の姫野先生が報告した釜山の事例は一つの示唆を示している。

今後の長崎のまちがどのように、持続性を持って新たなレイヤをどのように重ねて行くのか、楽しみである。



大浦のオランダ坂



眼鏡橋



大浦のオランダ坂



大浦のオランダ坂の上煉瓦塀の路地

編集後記

全国路地サミットは、2003年11月東京都北区十条地区を第1回として開催してから、19年、回数として17回を迎えた。毎回、少ない金額で全国各地の皆さんのご協力によりつないで来れている。

長崎市さんとの縁は、第6回の「全国路地サミット2008in長野」に遡る。この時の基調講演は、長崎さるく博のプロデューサーだった茶谷幸治氏に「まち歩きが観光を変える～長崎さるく博でわかったこと」と題してお話いただいた。この時、パネリストとして大分大学の姫野先生（当時助手）にも参加していただき、別府の路地歩きについてお話をいただいている。この会に参加した新潟の野内氏や池田氏は、2010年に「全国路地サミット2010in新潟」を開催いただいております。現在に至るまで全国路地のまち連絡協議会のサミットや各種イベントにご協力いただいている。この野内氏と池田氏は、NPO長崎コンプラドールの皆さんと親しいお付き合いであることを、今回の懇親会で知ることになった。

また、第9回の「全国路地サミット2011inすみだ」においては、長崎市東京事務所の神近宣博氏（当時所長）と黒田正代氏にご協力いただいて、サミットの懇親会に当時売り出し中の「長崎おでん」の提供と、リンガーハットジャパン（株）からちゃんぽん・皿うどんの無償提供をいただいた。長崎市と全国路地サミットは、少なからずつながりがあったのである。

すみだサミットの開催後、長崎市でのサミット開催を心待ちにしていたが、11年越しにやっと開催するに至った。

また、新潟サミットで基調講演された皆川典久氏（東京スリバチ学会会長）とは、当協議会の「ロジスリドン」（路地＋スリバチ＋ドンツキ協会）というまち歩きイベントで、連携を取らせていただいている。まさに、全国路地サミットや当協議会の活動は人のつながりによって成り立っていることを、改めて実感させていただいた会であった。

恋い焦がれた長崎のまちは、歴史的で魅力的な景観があり、わくわくするような路地がそこここにあり、人々もウェルカムなまちであった。

今回、全国路地サミット2022in長崎の開催にご尽力いただいたすべての方に感謝を申し上げます。特に、2019年の全国路地サミット2019in



懇親会後の記念撮影（出島ワーフにて）

八戸にご参加いただき、今回のサミットを企画・運営のすべての方でご活躍いただいた、梅元建治氏（長崎市議・ナガサキベイデザインセンター代表理事）には、心より御礼を申しあげたい。

今回のサミットの開催とこのレポートが、長崎市の今後のまちづくりやまち歩きなどに少しでも役に立てれば幸いです。

2022.12

全国路地のまち連絡協議会世話人一同

「全国路地サミット 2022in 長崎」
～立体路地のまち長崎から 路地の魅力を考える～
令和5年2月

発行: 全国路地のまち連絡協議会世話人会
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-5-3
株式会社アルメック内
Tel.03-3353-3203(代) / Fax.03-3353-2411
roji@machi-roji.com